

+1 (プラスワン)



めまいがしました」

牧師 横山順一

第四十七回、日本基督教団 みんなの伝道協議会 恒・開拓伝道協議会」が先月六日〜八日、仙台エマオを会場に開かれました。

二日目は、福島班と宮城班に分かれてのフィールドワーク。私は石巻と女川に行きたかったので宮城班を希望しました。

そこで訪れたのが、生まれて初めての原子力PRセンター。女川原子力発電所のすぐ隣にあります。若い、タレントのような女性が案内してくれました。五年前の地震時、女川にも津波が襲いました。その高さ十四メートル！

しかし十四・八メートルの防潮堤が、わずかに八センチ高かったため何とか水没を免れました。

加えて、五つあった電源の一つが生き残ったので、原発を冷やすための電力をかるうじて賄うことができました。

大参事となった福島第一原発から一番近い女川原発でした。以来、五年かけて、およそ二十九メー

ルの防潮堤の工事が進められ、完成まじかでした。最新のポンプ車電源車も配備されたと聞きました。五年前の津波より倍の高さの防潮堤ができます。ポンプ車・電源車もあります。、案内の女性は繰り返した。

だから？」もう安全と言って、も同然の説明でした。それがなかった時代だって「安全」を強調していたでしょう？それに想定を超える場合はどうするの？

いじわるで返したのではありませんが、避難計画はどうなっているのか、「いずれ来る廃炉のあとの処理をどうするのか」など、私たちの質問が重ねられました。

だって、女川一号機は、一九八四年から送電を開始していて、もう三十二年。来春の再稼働を目指しているそうですが、あと八年で使用の目安の四十年となるのです。

ところが、くだんの案内人は質問にしどろもどろ。すぐに所長さんが駆けつけました。そして言うには、それは私どもの関わる範疇ではありません」とのこと。避難計画も、廃炉処理も、それらは国や自治体のなすことで、東北電

力の仕事ではないのでした。

PR館は、果樹園や花壇に取り囲まれ、館内には遊具広場もあります。ここに年間一万余人からの訪問者があるそうです。更には、日本の原発すべての場所にPR館があるとも聞きました。

もし新たに原発を作るとしたら、だいたい三千五百億かかるのですが、それに加えて色々な対策費用として、建設費と同じ三千五百億円が投入されるといいます。石炭や石油火力の発電所ではあり得ない額です。

原発のある牡鹿半島は、リアス式海岸で、国道からたどり着くのために、相当なカーブの山道でめまいがしました。

でも疲れたのは、揺られ続けたからではありませんでした。

戦後の平和運動をリードした一人、むのたけじさんが先月亡くなりました。彼は、戦時中、新聞がすべて検閲されたのではない。九割は恐れて自粛したのだった」と述べていました。

見張り役が必要です。では誰が？でも誰が？